

## 4. 主要事業個別説明資料

該当	重点戦略
	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
○	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
	3.沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

### 沖縄東部河川総合開発事業（億首ダム）の整備促進 ～ 平成22年度 継続事業 ～

#### 1. 事業概要

億首ダムは、洪水調節、既得取水の安定化及び河川環境保全等のための流量の確保、かんがい用水及び水道水の供給を目的とする多目的ダムです。

平成5年度から建設工事に着手し、平成23年度の完成に向けて億首ダム本体工事、管理設備等の整備を進めています。

#### 完成・新規・継続の区分

継続

#### 事業区分(直轄・補助)

直轄

#### 事業着手年度

平成5年度(建設事業)

#### 完成予定年度

平成23年度

#### 平成22年度事業費

約5,274百万円(約6,110百万円※)

※業務取扱費を含む

沖縄東部河川総合開発事業(億首)

#### 概要図

##### 位置図



億首ダム完成予想写真

#### 2. 平成22年度の整備内容

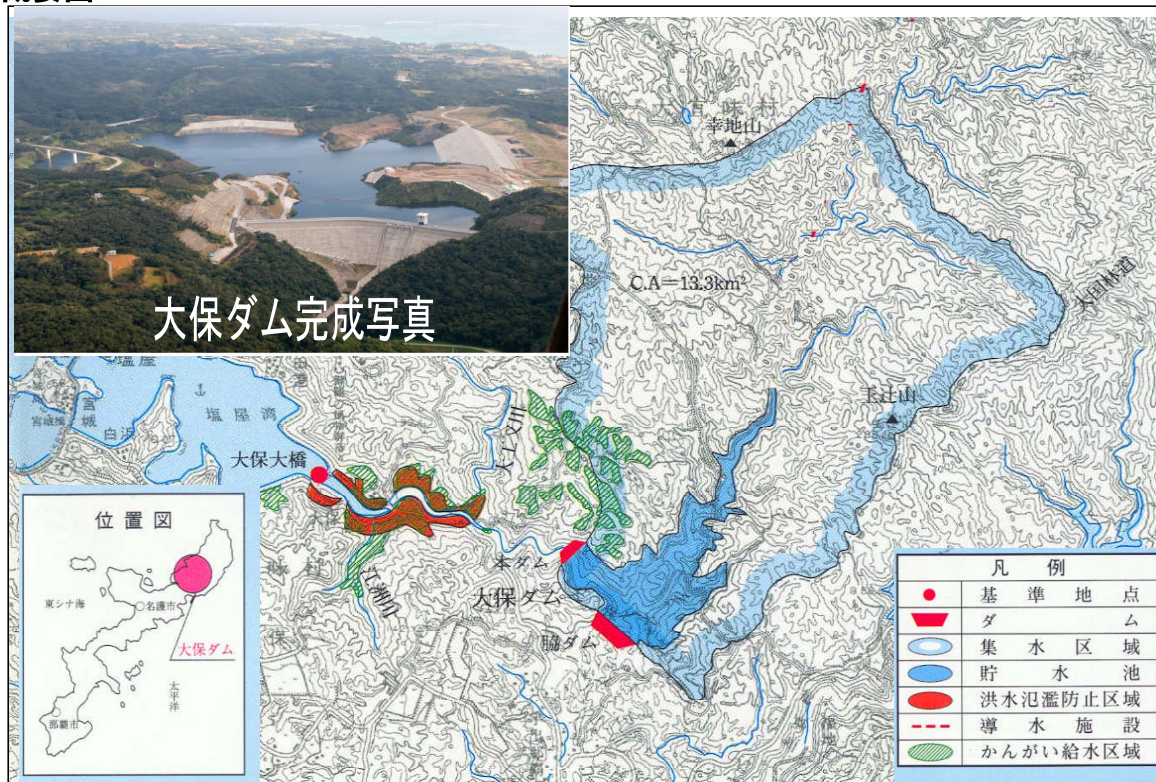
億首ダム本体工事を継続実施するとともに、管理設備等を実施します。

該当	重点戦略
	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
○	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
	3. 沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

**沖縄北西部河川総合開発事業（大保ダム）の整備促進  
～ 平成22年度 継続事業 ～**

<b>1. 事業概要</b> <p>大保ダムは、大保川水系大保川に大保ダムを建設し、沖縄県企業局による西系列水道水源開発事業における8河川取水等を大保ダムに導水するもので、洪水調節、既得用水の安定化及び河川環境保全等のための流量確保、水道用水の供給を目的とする多目的ダムです。</p> <p>平成14年度には本体建設工事に着手して平成18年度には脇ダム盛立、平成20年度には本ダム本体を完成させました。平成21年度には試験湛水を開始しており、平成22年度完成を目指して着実に事業の進捗を図ります。</p>	<b>完成・新規・継続の区分</b> 継続
	<b>事業区分（直轄・補助）</b> 直轄
	<b>事業着手年度</b> 平成2年度（建設事業）
	<b>完成予定年度</b> 平成22年度（大保ダム）
	<b>平成22年度事業費</b> 約 220 百万円（約 255 百万円※） ※業務取扱費を含む。 沖縄北西部河川総合開発事業

**概要図**



<b>2. 平成22年度の整備内容</b> 試験湛水を継続実施します。
--

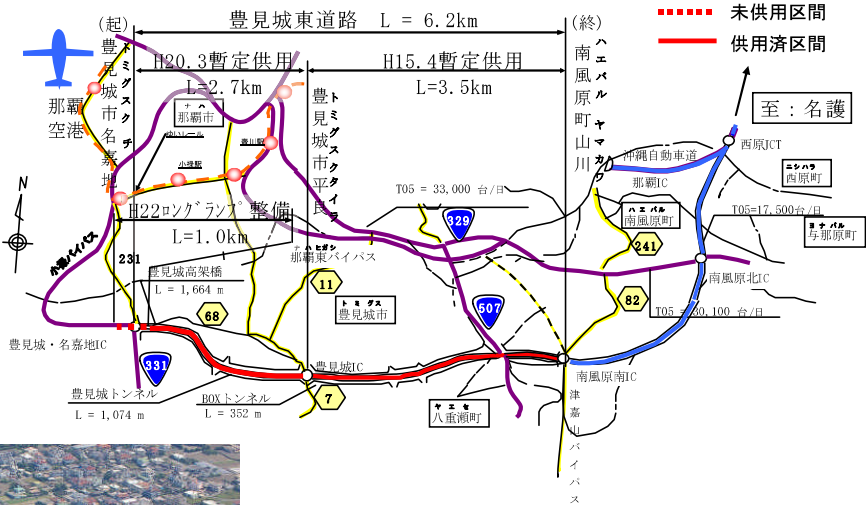
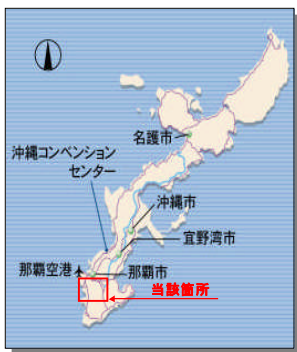
該当	重点戦略
○	1. 自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
	2. 安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
	3. 沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4. 地域との協働と新たな取り組み

**お約束プロジェクト**  
～目標を言い、守ります～

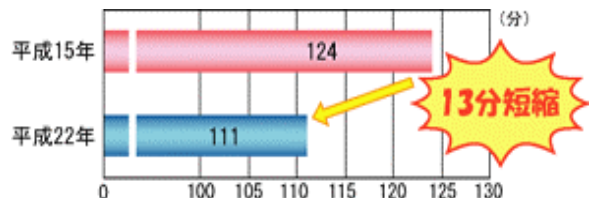
**一般国道506号「那覇空港自動車道 豊見城東道路」の整備促進**  
～平成22年度 継続事業～

<b>1. 事業概要</b> 豊見城東道路は、「ハシゴ道路」を構成する那覇空港自動車道の一翼を担うもので、本島北部及び中南部と那覇空港間の定時性、高速性を確保するとともに都市部の交通混雑緩和に役立つことが期待されています。 H15.4.26 に南風原南 IC～豊見城 IC 間の部分暫定供用、H20.3.22 の残区間供用により全線暫定供用を行った、引き続き、H22 の豊見城・名嘉地 IC のロングランプ整備(名嘉地交差点の立体交差化)を推進します。	<b>完成・新規・継続の区分</b> 継続
	<b>事業区分(直轄・補助)</b> 直轄
	<b>事業着手年度</b> 平成3年度
	<b>完成予定年度</b> 平成22年度(ロングランプ)
	<b>平成22年度工事関係費</b> 200百万円

**概要図**



那覇から国営沖縄記念公園までの所要時間が約13分短縮します。



**2. 平成22年度の整備内容**

豊見城・名嘉地 IC のロングランプ整備(名嘉地交差点の立体交差化)へ向け、附属施設工事等を推進します。

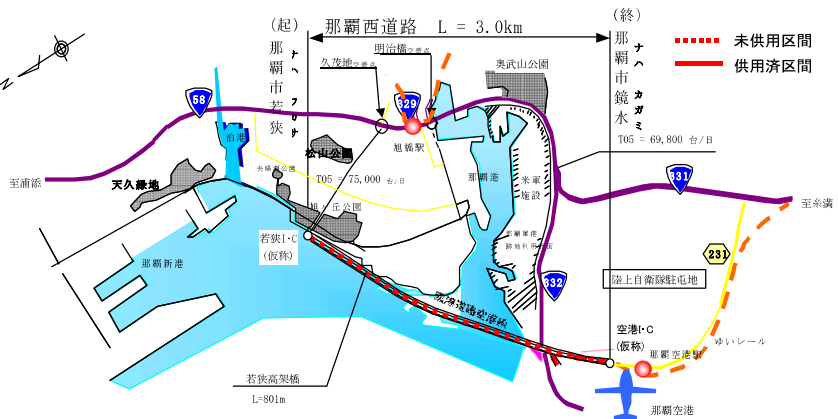
該当	重点戦略
○	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
	3. 沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

**お約束プロジェクト** ～目標を宣言し、守ります～

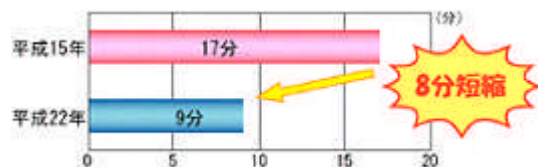
一般国道58号「沖縄西海岸道路 那覇西道路」の整備促進  
～平成22年度 継続事業～

<b>1. 事業概要</b> 那覇西道路は、「ハシゴ道路」を構成する沖縄西海岸道路(延長約50km)の一翼を担うもので、那覇市若狭から同市鏡水に至る延長 L=3.0km の道路であります。本路線は、那覇市街部及び周辺部の交通混雑の緩和、那覇港・那覇空港へのアクセス向上を目的とした路線であり、また、観光、地域の活性化、地域振興プロジェクトの支援に資する道路として期待されています。 平成22年度の供用を目指し事業を推進します。供用後、那覇空港から那覇新港までの所要時間が約8分短縮します。	<b>完成・新規・継続の区分</b> 継続
	<b>事業区分(直轄・補助)</b> 直轄
	<b>事業着手年度</b> 平成4年度
	<b>供用予定年度</b> 平成22年度
	<b>平成22年度工事関係費</b> 5,420 百万円

**概要図**



**那覇空港から那覇新港までの所要時間の短縮**



**2. 平成22年度の整備内容**

供用に向け、高架橋上部工事、改良工事、舗装工事等の促進を図ります。

該当	重点戦略
○	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
	3. 沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

**お約束プロジェクト**  
～目標を言い、守りま～

一般国道331号「沖縄西海岸道路 豊見城道路」の整備促進  
～平成22年度 継続事業～

<b>1. 事業概要</b> 豊見城道路は「ハシゴ道路」を構成する沖縄西海岸道路（延長約 50km）の一翼を担うもので、豊見城市瀬長から糸満市西崎に至る延長 L=4.0km の道路であります。本路線は、豊見城市及び周辺部の交通混雑の緩和、那覇空港等への交通アクセス向上、地域開発プロジェクトの支援に資する道路として期待されています。 平成19年3月17日に豊見城道路が全線暫定供用しました。	<b>完成・新規・継続の区分</b> 継続
	<b>事業区分（直轄・補助）</b> 直轄
	<b>事業着手年度</b> 平成元年度
	<b>完成予定年度</b> 平成23年度(交差点立体化)
	<b>平成22年度工事関係費</b> 1,040 百万円

**概要図**

豊見城道路 L = 4.0km

（起）豊見城市瀬長

（終）糸満市西崎

未供用区間  
供用済区間

那覇空港

豊崎交差点

信号待ち時の渋滞長が短縮されます。

立体化の整備なし (平成23年)	580 (m)
整備後 (平成23年)	110
<b>81%減</b>	

豊崎交差点付近

<b>2. 平成22年度の整備内容</b> 平成18年度までに全線暫定供用を達成しています。引き続き豊崎交差点(アウトレットモール前交差点)の立体化へ向けて橋梁工事を推進します。
--

該当	重点戦略
○	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
	3. 沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み



**一般国道331号「沖縄西海岸道路 糸満道路」の整備促進**  
 ～平成22年度 継続事業～

**1. 事業概要**

糸満道路は「ハシゴ道路」を構成する沖縄西海岸道路(延長約50km)の一翼を担うもので、糸満市西崎～同市潮崎に至る延長3.4kmの道路であります。

本路線は、豊見城市及び糸満市周辺部の交通混雑の緩和、那覇空港から糸満市潮崎及び西崎間の交通アクセスの向上、地域開発プロジェクトの支援に資する道路として期待されています。

平成23年度の全線暫定供用を目指し用地買収及び工事を推進します。供用後、ひめゆりの塔から那覇空港までの所要時間が約15分短縮します。

**完成・新規・継続の区分**

継続

**事業区分(直轄・補助)**

直轄

**事業着手年度**

平成2年度

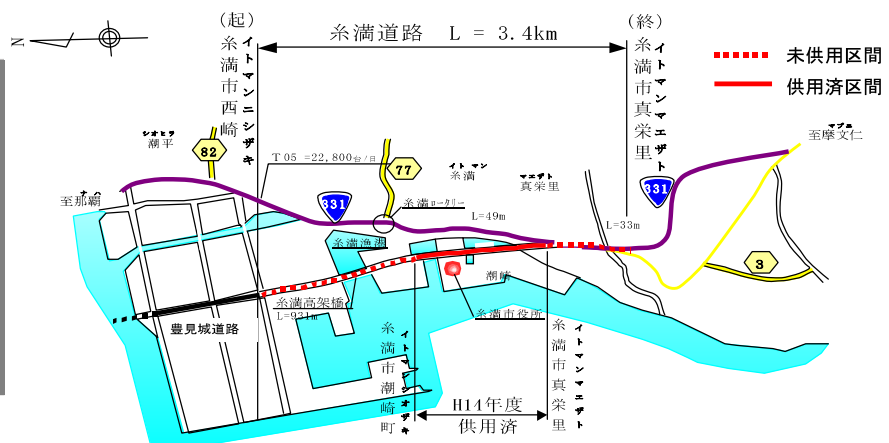
**完成予定年度**

平成23年度

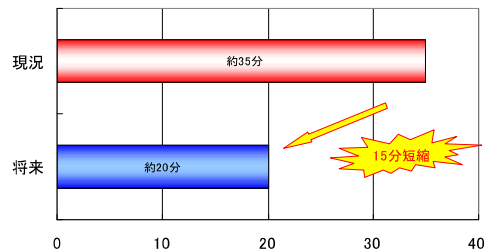
**平成22年度工事関係費**

3,880百万円

**概要図**



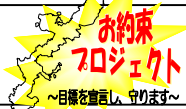
ひめゆりの塔从那覇空港までの所要時間が約15分短縮します。



**2. 平成22年度の整備内容**

供用に向け、高架橋上下部工事等のを図ります。

該当	重点戦略
○	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
	3.沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

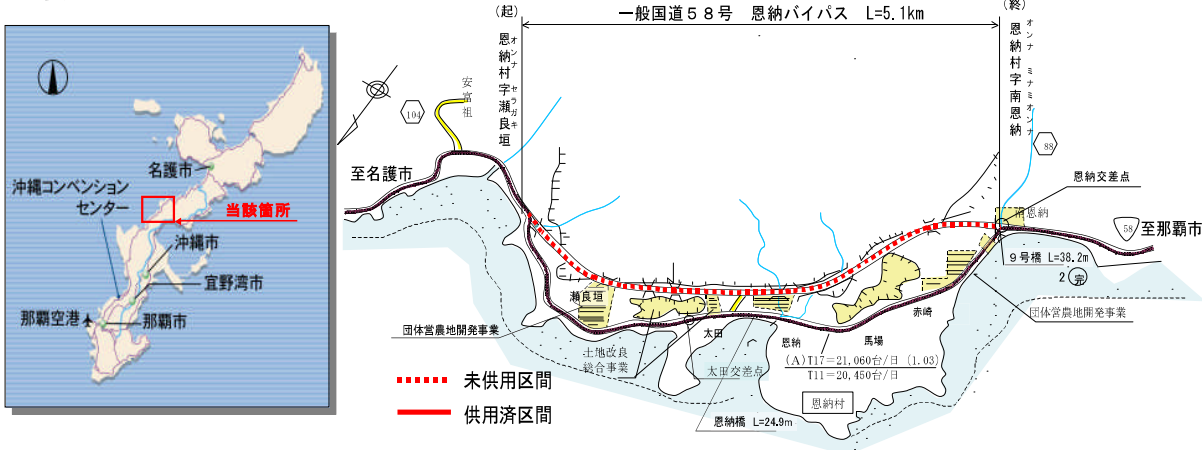


**一般国道58号「恩納バイパス」の整備促進**

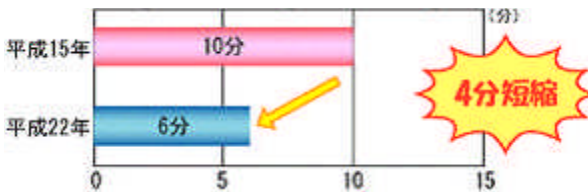

～平成22年度 継続事業～

<p><b>1. 事業概要</b></p> <p>恩納バイパスは、「ハシゴ道路」の一翼を担うもので、恩納村の夏期観光シーズンにおける交通混雑を解消するとともに、大型車と観光交通等を分離することにより、沖縄県における観光支援及び生活環境の向上を図ります。</p> <p>平成22年度の全線暫定供用を目指し用地買収及び工事を推進します。恩納バイパスが供用すると恩納交差点から瀬良垣までの所要時間が約4分短縮します。</p>	完成・新規・継続の区分	継続
	事業区分（直轄・補助）	直轄
	事業着手年度	平成元年度
	完成予定年度	平成22年度（暫定）
	平成22年度工事関係費	820百万円

**概要図**



恩納交差点から瀬良垣までの所要時間が短縮されます。

6号橋から終点側を望む

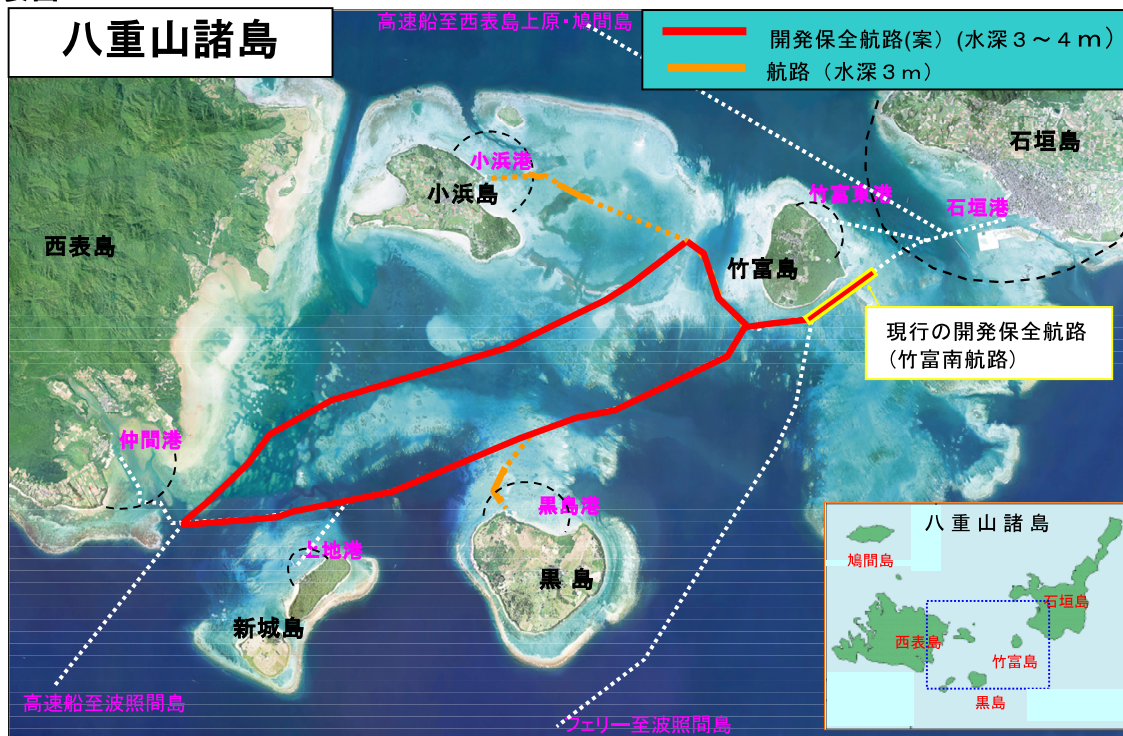
<p><b>2. 平成22年度の整備内容</b></p> <p>早期の供用に向け、改良工事、舗装工事等を推進します。</p>
--

該当	重点戦略
	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
○	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い国土づくり
	3.沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎと賑わいのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

**竹富南航路整備事業**  
～平成22年度 事業化検証調査～

<b>1. 事業概要</b> 竹富南航路は、八重山諸島の物流の中心である石垣島と周辺離島を結ぶ唯一の海上交通網ですが、本航路の先においては浅瀬が多く、暗礁を避けながらの航行となるため、船舶は日中のみの運航に制限されています。そのため、早朝・夜間における急患搬送ができないことや、浅瀬による乗揚事故など、海上交通が生命線である離島において地域住民の生活に支障をきたしています。 そこで、利用者の安全・安心を確保するため、竹富南航路(開発保全航路)の指定範囲の追加及び航路の整備へ向けた事業化のための検証調査を行います。	<b>完成・新規・継続の区分</b> 新規
	<b>事業区分</b> 直轄
	<b>調査着手年度</b> 平成22年度
	<b>完了予定年度</b> 平成22年度
	<b>平成22年度調査費</b> 100(100)百万円

**概要図**



**2. 平成22年度の調査内容**

竹富南航路における開発保全航路の指定範囲の追加及び航路の整備について、事業化へ向けた検証調査を行います。

該当	重点戦略
○	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
○	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
	3. 沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

**那覇港泊ふ頭地区大型旅客船ターミナル整備事業**  
～平成22年度 継続事業～

<b>1. 事業概要</b> <p>那覇港には、外航クルーズ船により多くの外国人観光客が訪れています。しかしながら、その受け入れについては、荷役作業を行っている一般貨物岸壁で対応しているため、沖縄のイメージの低下に加え旅客の安全性および荷役作業効率の低下が問題となっています。こうしたことから、観光立県沖縄としての海の玄関口にふさわしい旅客船ターミナルの整備を行うものです。また、多くの背後圏人口を抱える那覇港では、大規模地震が発生した場合における緊急物資対応の耐震強化岸壁の整備は急務となっています。よって、大型旅客船ターミナルを耐震強化岸壁として一体的に整備することにより、国際交流拠点の基盤整備を図るとともに、防災拠点の整備を図ります。</p> <p>なお、平成21年9月より暫定供用を開始しており、多くのクルーズ船が利用しています。</p>	<b>完成・新規・継続の区分</b> 継続
	<b>事業区分（直轄・補助）</b> 直轄
	<b>事業着手年度</b> 平成18年度
	<b>完成予定年度</b> 平成23年度（予定）
	<b>平成22年度事業費</b> 2,429（2,309）百万円

**クルーズ船接岸状況**

**バースの全景**

泊地  
(-6)

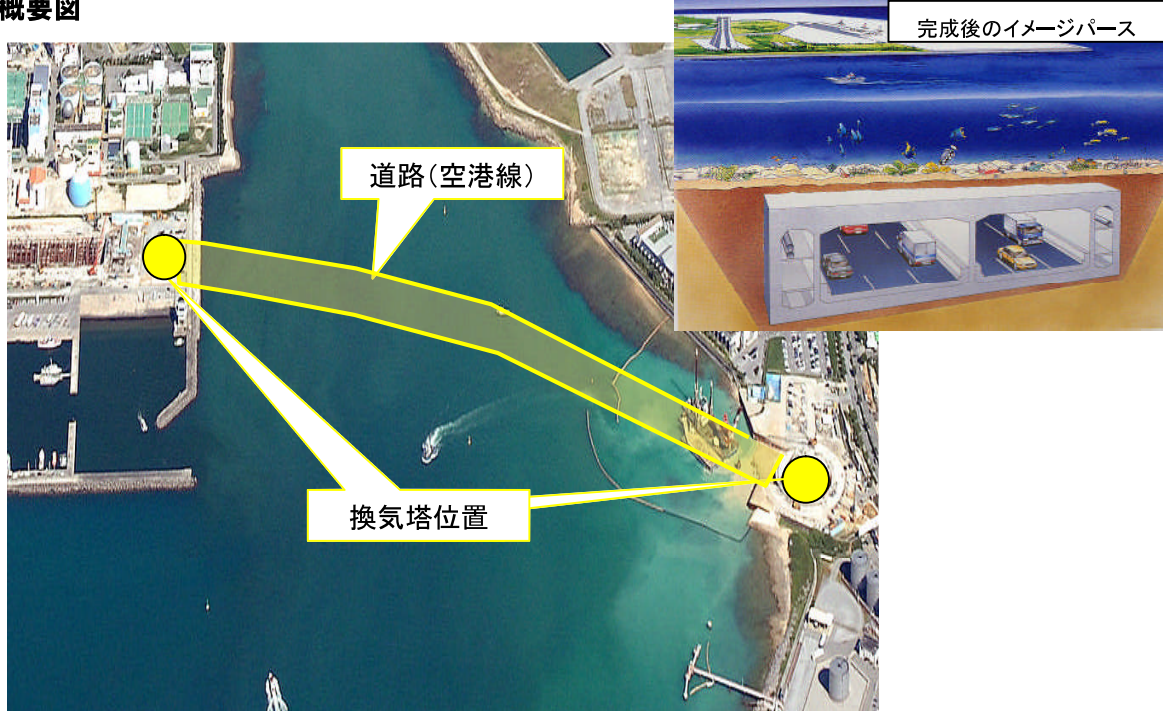
<b>2. 平成22年度の整備内容</b> <p>21年度に引き続き、臨港道路の整備を行うとともに、港湾施設用地の整備に着手します。</p>
---

該当	重点戦略
○	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
	3. 沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

**那覇港那覇ふ頭地区道路（空港線）整備事業  
～平成22年度 完成事業～**

<b>1. 事業概要</b> <p>沖縄の大動脈である国道58号は慢性的に交通渋滞が発生しており、早期の交通渋滞解消が求められています。</p> <p>那覇港道路空港線は、那覇港と那覇空港及び本島南部を海底トンネルにより連絡するものであり、那覇港における効率的な物流体系の形成に加え、国道58号の交通負荷の軽減に資するものとして、平成23年3月末の供用に向けて整備を図ります。</p>	<b>完成・新規・継続の区分</b> 完成
	<b>事業区分（直轄・補助）</b> 直轄
	<b>事業着手年度</b> 平成4年度
	<b>供用予定年度</b> 平成22年度
	<b>平成22年度事業費</b> 4,484(4,275)百万円

**概要図**



<b>2. 平成22年度の整備内容</b> <p>護岸復旧工事、換気塔内部工事及び沈埋トンネル内部構築工事を行います。</p>
--

該当	重点戦略
○	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
	3. 沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

**那覇港浦添ふ頭地区臨港道路（浦添線）整備事業  
～平成22年度 継続事業～**

<b>1. 事業概要</b> <p>沖縄本島の物流拠点である那覇港から本島中北部方面への物流は、浦添ふ頭以北の臨港道路が未整備であるため、慢性的な交通渋滞が続いている市街地を経由し、輸送することを余儀なくされています。このまま推移すると、那覇港の発生集中交通のみならず一般交通にも極めて深刻な影響を及ぼすことが予想されます。また、自然海岸保全のため、当初の埋立方式から一部橋梁方式への変更を行う予定です。</p> <p>従いまして、那覇港から中北部方面への臨港交通機能を強化し、港湾物流の円滑化を図るとともに、環境にも配慮した臨港道路（浦添線）の整備を図ります。</p>	<b>完成・新規・継続の区分</b> 継続
	<b>事業区分（直轄・補助）</b> 直轄
	<b>事業着手年度</b> 平成17年度
	<b>完成予定年度</b> 平成22年度（見直し予定）
	<b>平成22年度事業費</b> 1,813(1,731)百万円

**概要図**



<b>2. 平成22年度の整備内容</b> 橋梁の仮設工、下部工及び取付部分の埋立工を行う予定です。
---

該当	重点戦略
○	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
	3. 沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

**石垣港新港地区大型旅客船ターミナル整備事業**  
～平成22年度 継続事業～

<p><b>1. 事業概要</b></p> <p>石垣港は、国内外から大型旅客船が年間30～50隻(定期・不定期)寄港し、石垣市をはじめとする八重山地域の観光産業に大きく貢献しています。しかしながら、旅客船に対応した岸壁が未整備であるため、貨物船等と同じ施設の利用を余儀なくされており、荷役貨物の間を乗客が往来するなど安全面や荷役作業の効率性に問題が生じています。よって、旅客船ターミナルを整備することにより、安全・安心及び効率性を確保しつつ、国際交流拠点の基盤整備を図ります。</p> <p>また、本事業は沖縄クルージングネットワークを形成するとともに、観光立市宣言都市の石垣市において、地域の観光産業に大きく寄与されることが期待されています。</p>	<b>完成・新規・継続の区分</b>
	継続
	<b>事業区分(直轄・補助)</b>
	直轄
	<b>事業着手年度</b>
平成17年度	
<b>完成予定年度</b>	
平成23年度	
<b>平成22年度事業費</b>	
827(786)百万円	

**概要図**



<p><b>2. 平成22年度の整備内容</b></p> <p>21年度に引き続き、防波堤の整備を行うとともに、岸壁の整備に着手する予定です。</p>
---

該当	重点戦略
○	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
	3. 沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

**那覇空港の整備（エプロン新設他）**  
～平成22年度 継続事業～

<b>1. 事業概要</b> 貨物ターミナル地区において増大する航空需要に対応するためエプロンの新設工事を行います。また、機能向上のため排水工改良を行います。	<b>完成・新規・継続の区分</b> 継続
	<b>事業区分（直轄・補助）</b> 直轄
	<b>事業着手年度</b> 平成20年度
	<b>完成予定年度</b> 平成23年度
	<b>平成22年度事業費</b> 586百万円

**概要図**

平成22年度 施工箇所



**2. 平成22年度の整備内容**

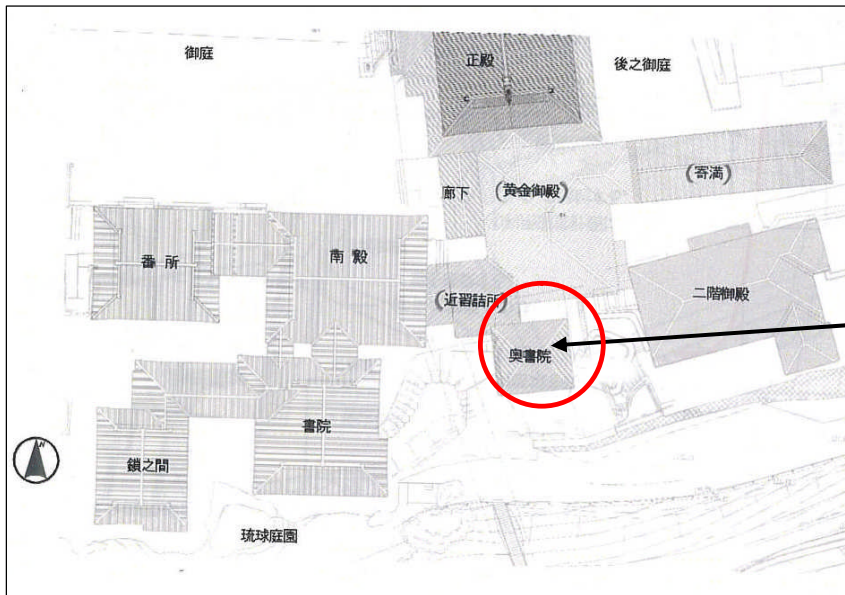
エプロン新設、用地造成(排水溝改良)

該当	重点戦略
○	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
	3.沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

**国営沖縄記念公園首里城地区（奥書院整備）**  
～平成22年度 完成事業～

<b>1. 事業概要</b> 国営沖縄記念公園首里城地区は、戦災によって失われた沖縄県のシンボリック的存在である「首里城」の再現を図り、沖縄の歴史・文化・観光の拠点となる都市公園を目指して整備を進めています。 奥書院は、国王が執務の間に休息した建物であり、国王の動線の再現に向けて、復元整備を行うものです。	<b>完成・新規・継続の区分</b> 完成
	<b>事業区分（直轄・補助）</b> 直轄
	<b>事業着手年度</b> 平成20年度
	<b>完成予定年度</b> 平成22年度
	<b>平成22年度事業費</b> 90百万円

**概要図**



**奥書院**

**2. 平成22年度の整備内容**

平成22年度は、建築工事を実施し、完成を目指します。

該当	重点戦略
	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
○	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
	3. 沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

**那覇港湾合同庁舎 耐震対策等施設整備事業**  
～平成22年度 継続事業～

<p><b>1. 事業概要</b></p> <p>官庁施設については、地震時の災害応急対策活動の拠点となることや来訪者等の安全確保の観点から、建築物全体(構造体・建築設備・建築非構造部材)としての総合的な耐震安全性を確保するための整備を推進します。</p> <p>また、老朽した官庁施設が今後増大していく中、来訪者の安全の確保や円滑な業務を実施するため、不具合を生じたエレベーター設備改修を実施します。</p>	<p><b>完成・新規・継続の区分</b></p> <p>継続</p>
	<p><b>事業区分(直轄・補助)</b></p> <p>直轄</p>
	<p><b>事業着手年度</b></p> <p>平成22年度</p>
	<p><b>完成予定年度</b></p> <p>平成22年度</p>
	<p><b>平成22年度事業費</b></p> <p>180百万円</p>

**概要図**



**2. 平成22年度の整備内容**

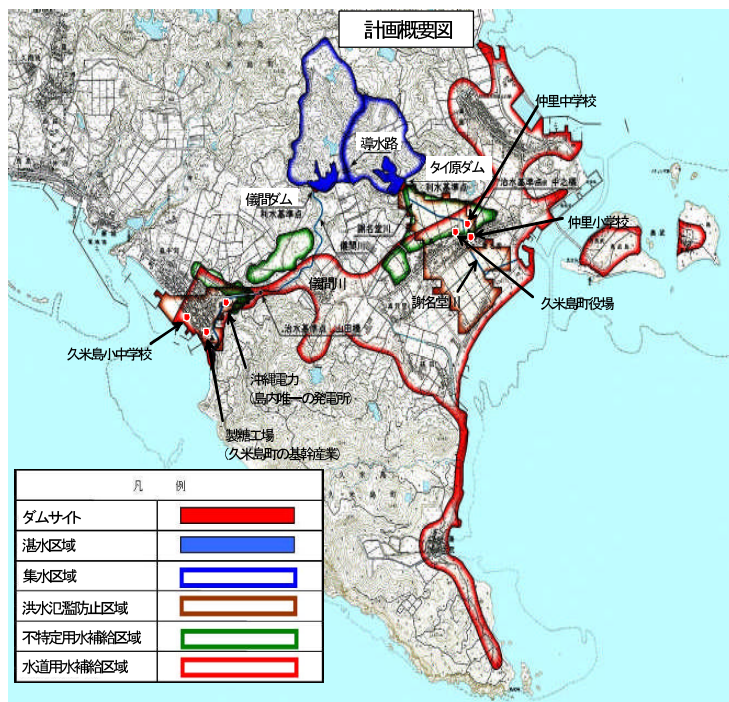
エレベーター設備改修を行います。

該当	重点戦略
	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
○	3. 沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

**儀間川総合開発事業（久米島町）**  
～平成22年度 継続事業～

<p><b>1. 事業概要</b></p> <p>久米島町は台風常襲地帯であり、大雨による浸水被害が多発しているため、ダム等による治水対策を進めています。また、水道用水とかんがい用水は同じため池を主な水源としています。このため、毎年夏場の渇水時には水道用水を最優先に確保するため、かんがい用水が確保できず、基幹産業であるサトウキビ畑の干ばつ被害が頻発しており、新たな水源の確保が求められています。</p> <p>以上のような洪水被害と渇水被害の対策として、儀間川総合開発事業が計画され、これまで平成2年度から実施計画調査を実施し、平成16年度から建設事業に移行し、平成19年度に儀間ダム本体工事に着手しました。完成目標年度は平成26年度となっています。</p>	<b>完成・新規・継続の区分</b>
	継続
	<b>事業区分</b>
	補助
	<b>事業着手年度</b>
平成16年度	
<b>完成予定年度</b>	
平成26年度	
<b>平成22年度事業費</b>	
1,362百万円	

**概要図**



儀間ダム完成予想図



タイ原ダム完成予想図

**2. 平成22年度の整備内容**

儀間ダム本体工事、儀間ダム管理設備工事、用地及び補償費(タイ原ダム)、水文調査等を行う予定です。

該当	重点戦略
○	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり 2.安全・安心な生活の確保と災害に強い国土づくり 3.沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎと賑わいのある地域づくり 4.地域との協働と新たな取り組み

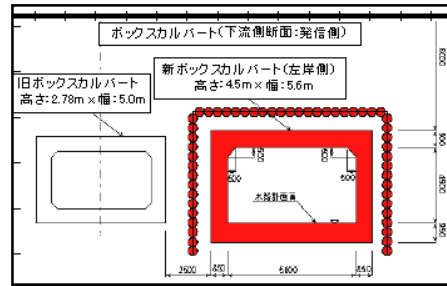
**安謝川広域河川改修事業  
～平成22年度 継続事業～**

<b>1. 事業概要</b> 安謝川は、改修計画延長3.6kmのうち、平成17年度までに河口から宇久増橋までの約2.3kmを概成し下流部での浸水被害は解消されましたが、国道330号の横断ボックスカルバートは流下能力が約50%程度しかないため、その上流側では浸水被害が頻発しています。 そこで、ボトルネックとなっている既設ボックスカルバートと平行に新設するボックスカルバートにより不足する流下能力を確保し、上流未整備区間へ事業を推進し、浸水被害の早期軽減を図ります。	<b>完成・新規・継続の区分</b> 継続
	<b>事業区分（直轄・補助）</b> 補助
	<b>事業着手年度</b> 昭和47年度
	<b>完成予定年度</b> 平成27年度
<b>平成22年度事業費</b> 470百万円	

**概要図**



ボックスカルバート上流の浸水状況 (H190811)



**2. 平成22年度の整備内容**

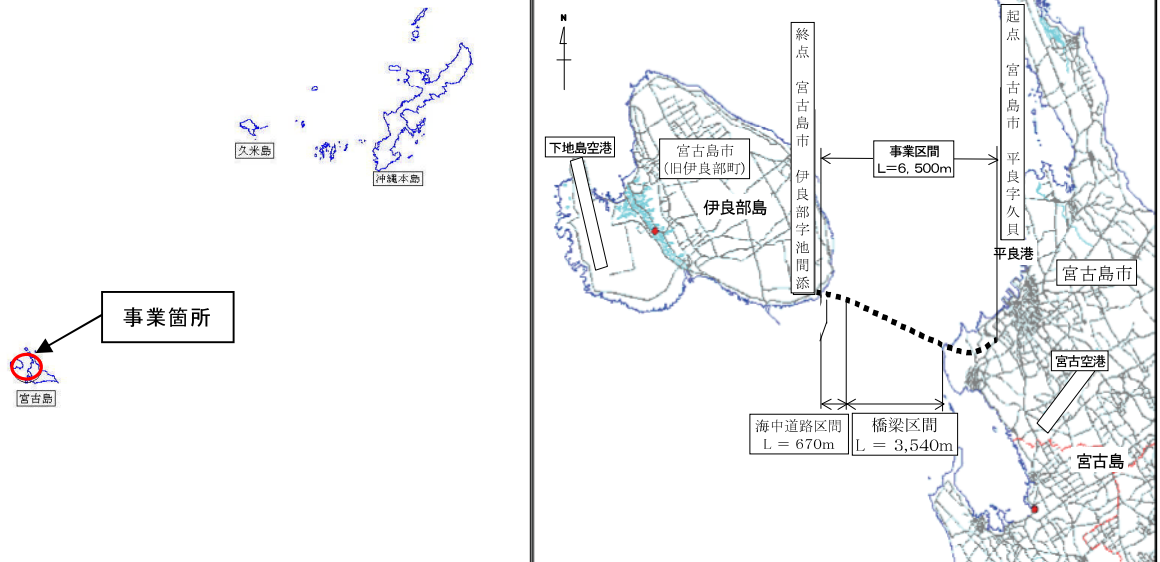
平成20年度に着手したボックスカルバートについて、平成22年度(3年国債)に完成が図れるよう、重点投資を行い早期に浸水被害の軽減を図ります。

該当	重点戦略
○	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
	3. 沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

**一般県道 平良下地島空港線 伊良部架橋**  
**～平成22年度 継続事業～**

<b>1. 事業概要</b> <p>当道路は、宮古島と伊良部島を結び、広域交通の一翼を担い、伊良部島の離島苦の解消、生活基盤の確保及び地域間の交流を支援・強化する幹線道路です。</p> <p>現在、伊良部島と宮古島間は、定期船により佐良浜漁港と平良港が結ばれていますが、台風や荒天時には欠航が余儀なくされ、通勤・通学に支障をきたす他、生活物資の輸送や農水産物の出荷等に大きな影響を及ぼし、更に救急患者の搬送及び所要時間の面から人命に関わる深刻な問題を惹き起こしています。</p> <p>当該路線の整備は、伊良部島の生活環境や医療・教育環境の改善、文化水準の向上や架橋による物流コスト低減や市場拡大による経済の活性化、下地島空港の利用促進など、宮古圏域の地域振興など多方面において期待されています。</p>	<b>完成・新規・継続の区分</b> 継続
	<b>事業区分(直轄・補助)</b> 補助
	<b>完成予定年度</b> 平成24年度
	<b>平成22年度予算</b> 6,380百万円

**概略図**



**2. 平成22年度の実施内容**

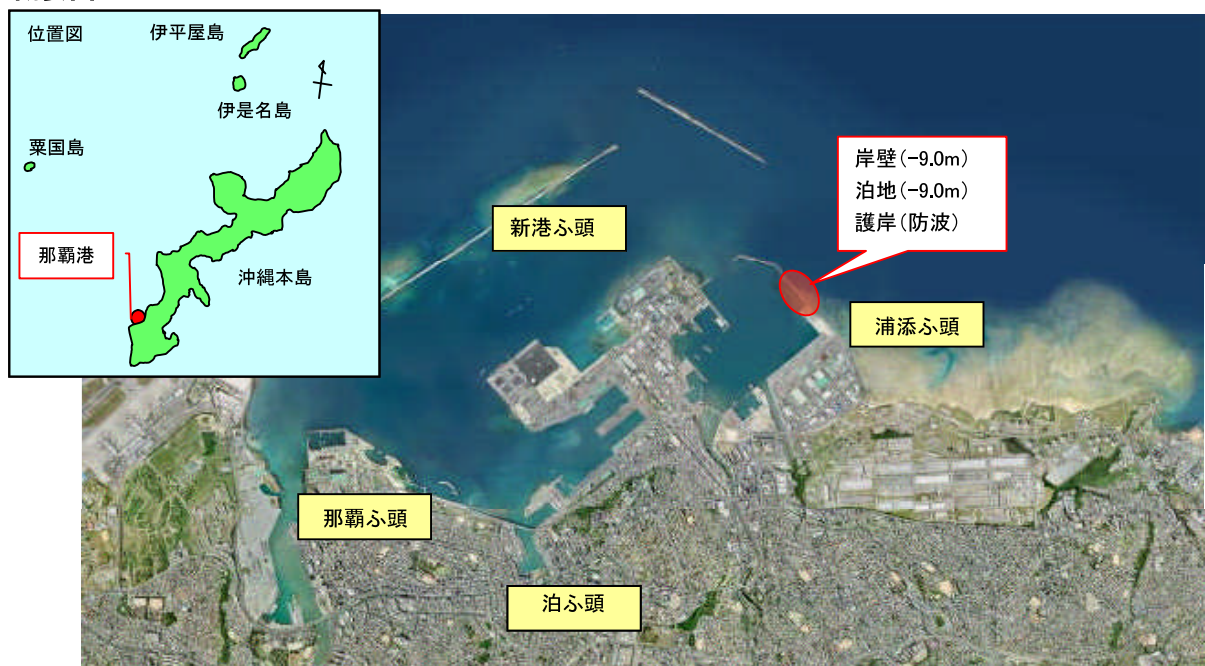
平成22年度は、海上橋梁の施工を行いません。

該当	重点戦略
○	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
	3. 沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

**那覇港浦添ふ頭地区国内物流ターミナル整備事業**  
～平成22年度 継続事業～

<p><b>1. 事業概要</b></p> <p>那覇港は、沖縄県域において国内外をはじめ周辺離島を連絡する最も重要な港湾です。特に新港ふ頭地区は、港全体の取扱貨物量の7割を扱う沖縄県経済流通の中心的機能を果たしています。しかし、取扱量が多く荷捌き地の不足等から、荷役効率の低下を招いており、新港ふ頭の貨物を他の施設へ移転させることが緊急の課題となっています。</p> <p>本事業は、新港ふ頭の機能の一部を浦添ふ頭地区へ移転することを目的に岸壁などの整備を行うものであり、那覇港の機能再編、ふ頭の効率性・利便性・安全性の向上を図り、物流効率化による地域産業の競争力の向上に寄与するものであります。</p>	<p><b>完成・新規・継続の区分</b></p> <p>継続</p>
	<p><b>事業区分（直轄・補助）</b></p> <p>補助</p>
	<p><b>事業着手年度</b></p> <p>平成19年度</p>
	<p><b>完成予定年度</b></p> <p>平成23年度</p>
	<p><b>平成22年度事業費</b></p> <p>511(460)百万円</p>

**概要図**



**2. 平成22年度の整備内容**

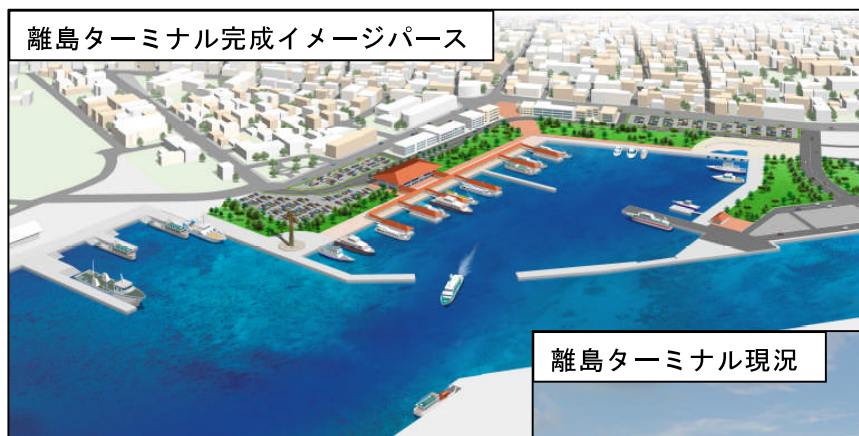
21年度に引き続き岸壁・泊地を整備しつつ、背後地を防護する護岸(防波)を整備します。

該当	重点戦略
	1.自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり
	2.安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり
○	3. 沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創造と安らぎのある地域づくり
	4.地域との協働と新たな取り組み

**石垣港本港地区離島ターミナル整備事業  
～平成22年度 継続事業～**

<b>1. 事業概要</b> 石垣港離島ターミナルは西表島、竹富島など八重山圏域の周辺離島航路発着地であり、年間約 200 万人(H18)が利用している八重山諸島観光の玄関口でもあります。 しかし、年々増加する観光客や大型化する船舶のため、水域・陸域とも狭隘化しており、利便性・安全性の向上と貨物取扱の効率化を促進するため、早期供用が期待されています。 なお現在は、離島ターミナルや各離島発着の高速船に対応した浮棧橋 4 基が供用されており、地域住民及び観光客の離島へのアクセス基地として稼働しています。	<b>完成・新規・継続の区分</b> 継続
	<b>事業区分</b> 補助
	<b>事業着手年度</b> 平成 15 年度
	<b>完成予定年度</b> 平成 24 年度
	<b>平成22年度事業費</b> 110(99)百万円

**概要図**



<b>2. 平成22年度の整備内容</b> 21 年度に引き続き、離島フェリーの利便性向上のため、物揚場や港湾施設用地の整備を行います。
---